

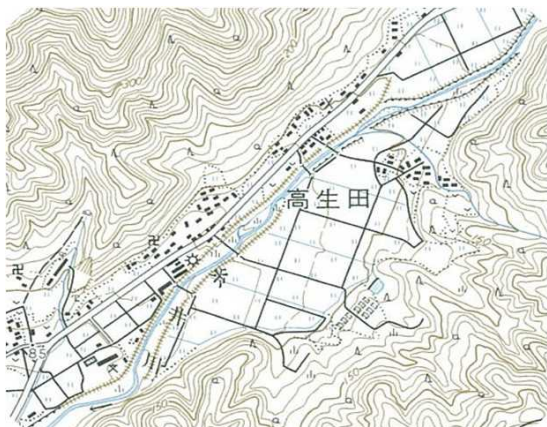


新技術の導入で獣害対策！！ ～朝来市和田山町高生田集落の取り組み～



地区の概要

全戸数	87戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	61戸
専業農家	0戸
農地面積	約30ha
生産目的	自家用中心
集落営農	無
生産組合	無



朝来市和田山町糸井地区の中心部に位置する高生田区。集落の中央部に県道と糸井川本流が通っている。非農家も多いが、シカ、イノシシ、クマの出没は集落全体の課題となっている。

これまでの対策

1995年頃

集落柵の設置

1995年ごろから山際に、約4000mの金網柵、糸井川沿いに約1000mの電気柵を順次設置。週1回程度、金網柵を点検。破られている場合そのつど補修。年3回の日役作業により、大規模な柵の補修、柵周辺の草刈り等を実施。

捕獲対策

箱ワナによる捕獲体制の整備

2010年

対策の総点検

但馬県民局事業を活用し、集落勉強会の開催、集落環境調査の実施、柵管理体制、捕獲体制の強化に取り組む。

ここに注目！

柵の管理体制の見直し



電気柵の電圧確保が不十分だったため、デジタル式の電圧チェッカーを各隣保に導入し、定期的な電圧チェック体制を確保。老朽化や接続部分の漏電が見られたことから、折れにくいポールや扱いやすいクリップなど新型の資材を導入した。



電気柵が設置できない河川支流部に、すだれ式の電気柵を試験的に設置し、侵入を抑制しています！



弾性ポール、クリップ式の電気柵も導入しました。



コンピュータ制御捕獲装置の導入



ハコワな捕獲技術を高めるとともに、に入った動物の数をセンサーが把握し、一定数が入ると自動的に扉が閉まるコンピュータ制御捕獲装置「かぞえもん」も導入しています。

取り組みの成果と課題



これまで行っていた獣害対策の中の課題を明らかにし、集落研修会を通して対策管理等の基礎知識から応用技術等を再確認し共有できるようになった。



山際の金網柵の徹底管理とともに、電気柵の能力が増強されたため、侵入防止効果が高まった。河川部からの侵入対策は当初はまったく侵入されなくなったが、約80日後に侵入された。今後も工夫を重ねる必要がある。



はこわな捕獲技術を学び、捕獲体制を強化し、防護柵と捕獲による防御体制ができた。新型捕獲柵については今後の成果が期待される。

センター講評

役員さんのリーダーシップと区民の連携により、集落柵の管理、捕獲、環境整備等が組織的に取り組まれています。防護柵や捕獲において、新しい技術も積極的に導入されています。電気柵に慣れたシカにより河川部からの侵入は完全に阻止はできていませんが、各ほ場ごとの対策により被害を最小限に食い止めています。集落ぐるみの優良事例と言えます。

